

## 舌下免疫療法を受けられる患者さま、ご家族さまへ



<当クリニックでの治療の流れ>

- ① 初診：舌下免疫療法の説明、アレルギー検査など
- ② 再診：検査結果説明・治療意思の確認、初回服用薬の処方箋お渡し  
(初診時にアレルギー検査結果があれば①に含む場合もあります)
- ③ 再診：クリニック内での初回服薬（服用から30分待機、症状によっては長くなります）
- ④ 再診：初回量を1週間継続し再診
- ⑤ 再診：維持量を1週間継続し再診
- ⑥ 再診：維持量を継続、1か月毎に再診

大野医師診察	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○		○	
14:00～18:00	○	○			○	

### ① 初診

- ・ご予約は一般診察枠（大野医師診察）をお取りください。  
Web問診内に「舌下免疫療法希望」とご記入ください。
- ・診察で舌下免疫療法の適応となるかどうかや、患者様自身（未成年の場合はご家族様）の治療への意思などを確認します。
- ・アレルギー検査（血液検査）を行います。過去にアレルギー検査を実施されている場合、検査結果をご持参ください。他院実施の検査結果もお持ちでしたらご持参ください。
- ・舌下免疫療法のパンフレット、当院での治療の流れ（本紙）、同意書をお渡しします。  
➡ご自宅でご検討いただき、治療の流れやそれに伴うリスクについて納得された場合は、同意書にサインをして次回来院時にご持参ください。

### ② 再診（診察2回目）：舌下錠処方日

- ・ご予約は一般診察枠（大野医師診察）をお取りください。
- ・初診時に行ったアレルギー検査結果を説明します。
- ・舌下免疫療法の適応であれば、治療の流れや治療への意思を確認します。  
初診時にお渡しした同意書にサインがあるか確認します。
- ・治療や服薬についてのご不安やご質問などがございましたらご遠慮なくご相談ください。
- ・治療開始が決まれば、初回投与量の舌下錠とアレルギー薬の処方箋をお渡しします。  
薬局で処方薬を受け取り、クリニックにあづけてください。
- ・初回服薬はクリニックで行います。  
➡次回予約（③再診・初回服用日）を当院スタッフがお取りします。

③ 再診：初回服用日 令和 年 月 日（ ） :

### ③ 再診：初回服用日

- ・指定のご予約日にご来院ください。
- ・治療開始のご意向を確認できましたら、初回服薬をクリニック内で行います。
- ・②の受診時におあずかりさせていただいた舌下錠とアレルギー薬を使用します。
- ・クリニック内でスタッフ立会いのもとで、舌下錠を舌の下に置き、1分間そのままの状態を維持します。1分経過したら飲み込みます。その後5分間、うがい・飲食はできません。
- ・アレルギー反応などの副作用が出ないかどうか、30分間クリニック内で待機していただきます。待機中、気分不良、喉の違和感や詰まる感じ、かゆみなど気になる症状がある場合、スタッフへお知らせください。
- ・服用から30分以後に医師の診察を受け、問題がなければこの日の診察は終了です。
- ・②でおあずかりした初回量の処方薬をお渡しします。

#### \*初回服用の翌日から1週間後の再診まで\*

- ・初回量の舌下錠を毎日決まった時間に服用を継続しましょう。
- ・服用時間はいつでも可能ですが、副作用が出現した場合に医療機関にかかりやすいなどの理由で午前中に服用することが望ましいです。
- ・クリニックで初回に服用したように、1分間舌の下に置いて、1分後に飲み込みます。
- ・服用後5分間はうがいしたり、飲んだり食べたりすることは控えましょう。
- ・服用前後2時間は激しい運動や入浴、飲酒などは避けるようにしましょう。
- ・激しい運動や入浴、飲酒などで血流がよくなると副作用が出やすくなることがあります。

### ④ 再診：初回服用から1週間後

- ・ご予約は一般診察枠（大野医師診察）をお取りください。
  - ・きっちり1週間後の受診が難しい場合は1週間以内に受診してください。
  - ・服用状況や口腔内の状態の確認、副作用がないか、などを確認します。
  - ・診察の結果、問題がなければ、維持量の舌下錠を処方します。
- 7日目まで初回量の舌下錠の服用を継続し、8日目から維持量の舌下錠を服用します。

### ⑤ 再診：維持量服用から1週間後

- ・ご予約は一般診察枠（大野医師診察）をお取りください。
- ・維持量の舌下錠服用も順調に進められているか、副作用がないか、などを確認します。
- ・問題なければ維持量の舌下錠服用を継続しましょう。
- ・以後1か月毎の診察と処方（30日分）の継続となります。

### ⑥ 再診：1～2か月毎に維持量継続（状況によって保護者様のみの来院も可）

- ・順調に治療を進められていれば1～2か月毎の診察と服用を継続します。
- ・少なくとも3年ほどは継続が望ましいです。